

冬期間の白神山地周辺での低密度下における

ニホンジカに対する誘引物の効果について

津軽白神森林生態系保全センター	発 表 者	専門官	中和 範雄
	チーム員	地域技術官	舘山 幸典
	チームリーダー	自然再生指導官	田中 宏明
	アドバイザー	所長	田中 邦子

1 はじめに

現在白神山地周辺のニホンジカの生息密度は km^2 当たり 1.0 頭未満（環境省の 2024 年 3 月 22 日報道発表）と低い状況です。

しかし、当センターで平成 27 年度より行っている『白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査』のセンサーカメラにより撮影される回数は増加傾向にあります。

センサーカメラの設置台数は、その年により多少異なりますが、ニホンジカの撮影個体数は平成 27 年度から令和 3 年度までは 4 ～15 個体で顕著な増加は見られませんでした。令和 4 年度 39 個体、令和 5 年度 137 個体と大幅に増加し令和 5 年度が過去最多となりました（図 1）。

このようなことから、増えすぎて農林業被害や下層植生に影響が出る前の段階で、低密度下の捕獲、駆除の対策を効果的に機能させるため、餌による誘引試験を令和 4 年度夏期と令和 5 年度冬期に行ったものです。

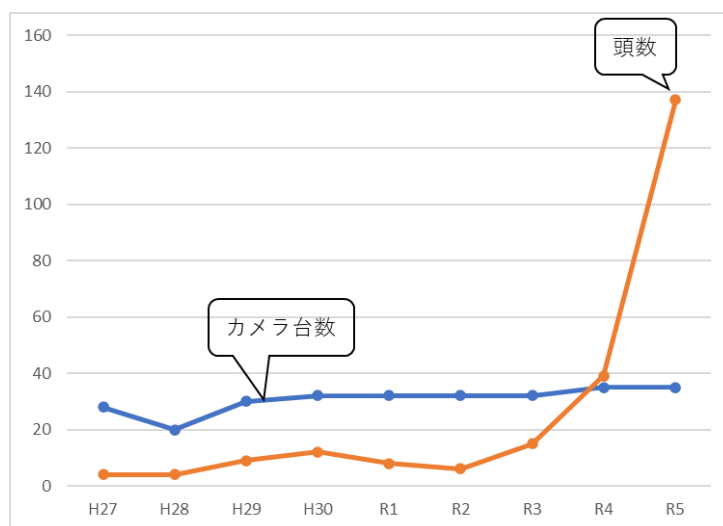


図 1 ニホンジカ撮影個体数(30 分インターバル有)

2 取組

令和 4 年度夏期の試験は令和 4 年 7 月から 12 月にかけて、調査地は日本海側の青森県西津軽郡深浦町の 2 カ所で塩分・鉄分等を固めたシカ誘引剤、牧草、ヘイキューブ、米糠、牛糞の 5 種類の誘引物を用いて行いました。

これら 5 つを選定した理由は、過去に他の機関や地域で行ったニホンジカ誘引試験の結果を参考に誘引効果のあった誘引物を設置しました。(表 1.1)。

なお、鉍塩については成分が似ている塩分・鉄分等を固めたシカ誘引剤を使用しました。

表1 参考事例

	鈹塩	牧草	ヘイキューブ	米糠	牛糞
長野県と信州大学	—	○	—	—	—
岐阜大学と岐阜県	○	—	○	○	—
山梨県森林総合研究所	—	○	×	—	—
三陸中部森林管理署	○	—	×	—	—
赤谷ふれあい推進センター	○	—	×	—	—
千葉森林管理事務所	×	—	○	—	—
長野県の有識者(ヒアリング)	—	—	—	—	○

(○効果があった ×効果なし —試験を行っていない)

また、令和5年度冬期の試験は令和6年1月から3月にかけて、誘引物を約1m間隔でニホンジカの通り道と思われる場所に置き、餌に近づいたニホンジカを撮影するため赤外線センサーカメラを立木の地上1.5mの高さに3方向から撮影できる様3台設置しました。

赤外線センサーカメラの設定は24時間稼働、センサー感度は中で撮影インターバルはなし、連続3枚撮影としました。

調査地は深浦町大字砂子川国有林3012林班ろ2小班内の、中・大型哺乳類調査でニホンジカが撮影された実績がある箇所、また冬期間のため誘引物が雪に埋もれたり濡れたりすることを想定し、最低2週間に1回程度見回るため積雪時でも行ける場所を選定しました。

誘引物については令和4年度夏期と同様の、塩分・鉄分等を固めたシカ誘引剤、牧草、ヘイキューブの3種類を設置しました(図2)。

米糠と牛糞については、冬期間では雪と寒さで凍る等し、管理が難しいため行わないこととしました。



図2 試験地設置方法

3 結果

令和4年度夏期については令和4年度森林・林業技術交流発表会で発表していますが、ニホンジカは誘引されず撮影もされませんでした。

令和5年度冬期についても誘引されず撮影もされませんでした。

撮影された哺乳類はニホンザル、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ニホンリス、テン、ニ

種名/月	1月	2月	3月	計
ニホンジカ♂	0	0	0	0
ニホンジカ♀	0	0	0	0
ニホンザル	0	11	1	12
ホンドタヌキ	0	1	0	1
ホンドキツネ	0	0	1	1
ニホンリス	0	1	0	1
テン	0	1	0	1
ニホンノウサギ	0	3	0	3
不明哺乳類	0	0	1	1
種数計	0	5	3	8
個体数計	0	17	3	20

ホンノウサギでした（表2）。

撮影された哺乳類でホンドキツネが塩分・鉄分等を固めたシカ誘引剤に近づきました（図3）。



図3 ホンドキツネ

4 考察・結論

ニホンジカが誘引されなかったのは、年々増加しているもののまだ生息密度がkm²当たり1.0頭未満と低い状況にあるためと、撮影された動物もほとんどが興味を示して

いないことから、誘引物自体に慣れていないと思われ、また令和5年度冬期間は暖冬により雪が少なく食べる物が有ったのではないかと考えられます。

今後について、これまで行ってきた誘引方法の見直しやそれ以外の誘引物やコストの掛からない方法を検討していたところ、弘前大学農学部生命科学部生物学科 ムラノ助教から、森林総合研究所より2024年10月29日にプレスリリースされた「塩水でメスジカを引き寄せる - メスの集中捕獲を目指して - 」を教えて頂き、これを参考にこれから新たな誘引試験を行いたいと考えています。

このプレスリリースによるとニホンジカの母乳にはナトリウムが多く含まれるため出産・授乳の時期である春から初夏にかけてナトリウム不足となるようです。これにより塩水をよく飲むとのことでした。

これを参考に通年を通して食塩1kgに対し水約2Lを入れた5Lバケツを設置し、低密度下でもニホンジカのメスを誘引出来るか試験を行ってみたいと考えています。

通年を通して行う理由としては、まだ生息密度が低いため、そこに塩水が有ることを気付かせるためと、塩水の入ったバケツそのものに慣れさせるように設置したいと考えています。

この方法のメリットについて、食塩は安価で入手しやすく高濃度で設置しておけば水分量が多少減っても降雨により水分が供給されるため頻繁に給水する必要は無く、これまで行ってきた塩分・鉄分等を固めたシカ誘引剤、牧草、ヘイキューブ、米糠、牛糞より管理が簡単で手間とコストが減ると考えました。

白神山地周辺でも塩水によるニホンジカのメスの誘引が出来れば、選択的に捕獲することにより増加速度を抑えることが出来、農林業被害や自然植生を守る事が出来るのではないかと考えています。

5 参考文献

(1) 環境省

本州以南のニホンジカ密度分布図（令和4年度（2022年度）中央値）

(2) 中山 恵・小林 和夫・平沢 博一・寺田 直哉・竹田 謙一

長野県、信州大学（2009）

シカ食害が発生している公共育成牧場の対策と効果

(3) 池田 敬・白川 拓巳・鈴木 正嗣 岐阜大学、岐阜県（2018）

5種類の誘引餌によるニホンジカとイノシシへの誘引効果の比較

- (4) 飯島 勇人・大地 純平 山梨県森林総合研究所 (2016)
ニホンジカの誘引に適した餌の検討
- (5) 金田 直幸・米澤 晃司・門脇 希 三陸中部森林管理署 (2018)
ニホンジカ捕獲の取組について (森林・林業技術交流発表集)
- (6) 齋藤 一広・松井 宏宇・坂庭 浩之 関東森林管理局 他 (2018)
低密度下におけるニホンジカの誘引及び捕獲試験
- (7) 江口 恵・吉田 淳久 千葉森林管理事務所 他 (2018)
房総地域におけるニホンジカ生息状況調査
- (8) 主任研究員 鈴木 圭 森林総合研究所 九州支所 森林動物グループ (2024)
塩水でメスジカを引き寄せる-メスの集中捕獲を目指して-
- (9) 一般社団法人 山形県猟友会 (2021)
令和2年度ニホンジカ試験捕獲業務【米沢市・鶴岡市】報告書